

リーディングDXスクール事業【実践事例】

笠岡市立笠岡小学校（岡山県）

【取組内容】子供一人一人が「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶ授業づくり

1 単元内自由進度学習及び複線型授業の実践

本校では令和5年度から、研究主題「『見方・考え方を働かせ、学び合い、高め合う児童・生徒の育成』～子ども一人一人が主語になる1人1台端末の活用を通して～」を掲げて、子供が「自己選択」「自己決定」「自己調整」できる力を身に付けることを目指した取組を重ねている。令和5年度は「単元内自由進度学習（一単元分の学習時間を子供一人一人に委ね、各自が自分のペースに合わせた計画で進める学習）」を中心に取組んだが、現在では日常的な授業にこうした趣旨の学びが定着しつつあり、1単位時間ずつを自由進度で行う「複線型授業」が中心となっている。

2 「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶための学習環境

こうした「子供に学びを委ねる」学習を保証するためには、学習環境が重要になる。

- ・ 写真①のように、自分のめあてに応じて、必要な仲間と協働的に学んだり一人で学んだりすることを各自で選択・決定できるようにすること
- ・ 写真②③のように、自分のペースで、教師が予め用意した学習コーナーや掲示物を活用したり、実験を行ったりすることができるようにすること
- ・ 写真④のように、端末へ調べたことや自分の考えを入力したり、紙のノートへ書いたりする等の選択・決定ができるようにすること

これらは、子供達が学びの中で「自己選択」「自己決定」「自己調整」を円滑に行うための必須の「環境」と考える。

例えば、一斉授業で③のような理科の実験を行う際には、一般的にグループで取り組むことが多い。グループで実験をすると、主体的に活動する子供と受動的な態度で過ごす子供とに分かれることがある。単元内自由進度学習や複線型授業では、必ず一人一人が主体的に実験に取り組むという、一斉授業に対する良さがある。それは、子供達が学び方を「自己選択」「自己決定」「自己調整」できることによる良さでもある。

さらに大切なこととして、単元内自由進度学習や複線型授業で子供達が「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら主体的に学んでいると、教師のかかわり方として、多くの子供に対しては「見守る」こと、状況を確認しながら必要に応じて声を掛けたり確認したりすることが中心となる。その分、個別の支援が必要な子供に手厚くかかわることができ、その結果すべての子供に「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶ機会を用意することができる。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

笠岡市立笠岡小学校（岡山県）

【取組内容】子供一人一人が「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶ授業づくり

3 クラウドを活用する良さ

クラウドを活用することで、「自己選択」「自己決定」「自己調整」しながら学ぶことがより容易になる。

(1) は4年理科「とじこめた空気と水」で子供が自分の学びを記録した学習カード（スプレッドシート）である。一人一人が「自分のめあて」「やること」「学習のまとめ」「振り返り」を記録しているが、一連の学習過程について他者参照ができるので、自分がすることを選択、決定、調整することによってカードは寄与している。この他にも二人一人の学習の進捗状況を参照することができるシートも活用している。

(2) は6年社会「明治の新しい国づくり」におけるある時間の板書である。本時自分がどの学習内容に取り組むかを意思表示するためネームプレートを張っている（右側）。例えば、ある子供は、当初③に取り組むと表示していたが、他者参照しながら②の内容が不十分であることに気付き、ネームプレートを②に張り替えるという様子も確認できた。他者参照が、学びの自己調整に寄与している様子であったと考える。

クラウドを活用することで、教師もより多くの子供の学びが把握できるので、指導・支援も行き届きやすくなる。

(1) 4年理科「とじこめた空気と水」におけるある子供の学習カード（一部）

③空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。 <思考・判断・表現>①空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想し、表現するなどして問題解決している。 ②空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。 <主体的に学習に取り組む態度>①空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 ②空気と水の体積やおし返す力の変化とおす力との関係について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。			
課題の設定>	やること<情報の収集>	まとめ	ふりかえり<★学習内容 ★学習方法>
様子について 話し合う。	教科書P110～111	空気であらう打つときに、手のひらや手の指の力を入れて	玉が飛ぶのは、とじこめられた空気が押し寄せられて、それで玉が一瞬に飛んでいってポン！と飛ぶと思う。玉を1つを飛ばすときもポン！というけれど玉を2、3つのほうでポン！！と大きく音がなった。玉が飛ぶとき同時に手の力が抜ける気がした。押すときにぐっと力を入れたほうが玉はポン！！と飛んだから力強くすると良いと思う！ポリ袋でやると最初は押すと柔らかいけど途中から固くなる。
空気は、 うなるかを う。	教科書P112	ふくろに空気を入れてうったときに最初は柔らかいけど思い	100
玉を押して たえを う。	教科書P113	まず、実験1のとじこめた空気をやってみると、途中までは	369
空気は うなるかを	教科書P114		

(2) 6年社会「明治の新しい国づくり」における板書

リーディングDXスクール事業【実践事例】

笠岡市立笠岡小学校（岡山県）

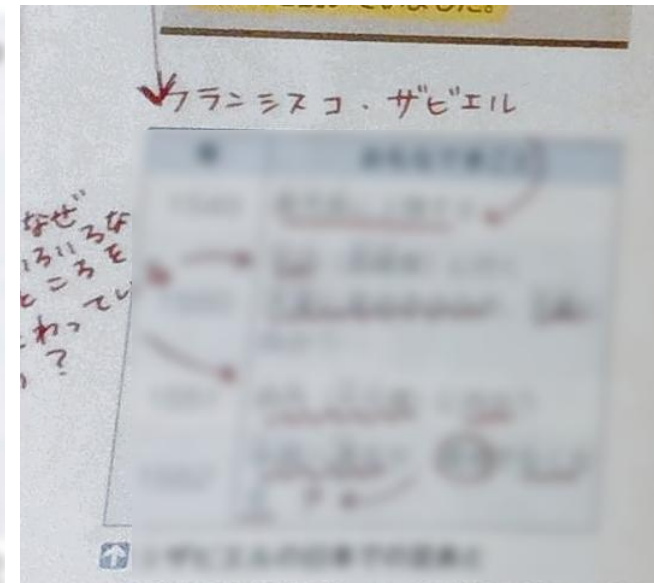
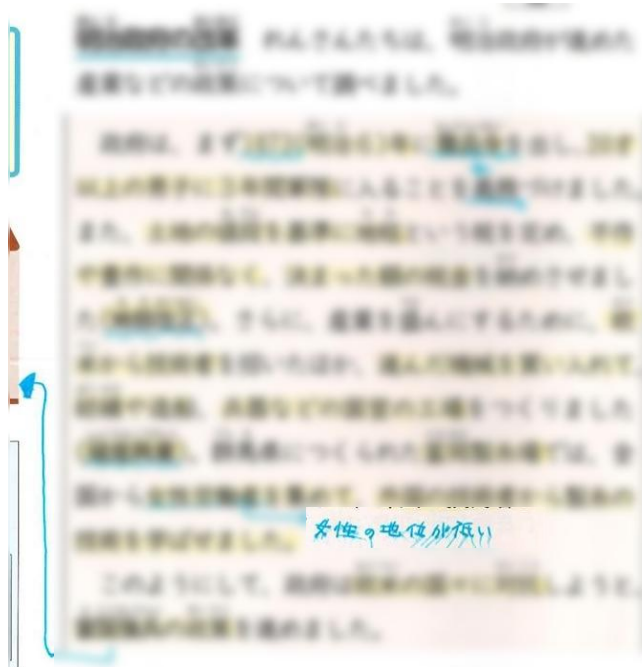
【取組内容】教科書から情報を分析的に読み取り，整理・表現する

1 教科書から情報を分析的に読み取る

高学年で育てたい情報活用能力「知りたいことを図書資料や統計資料など複数の情報を集めて、整理・分析することができる。」を育成する上で、様々な資料の前に「教科書」を中心に活用することを重視している。

教科書は、その道の専門家が吟味を重ねて作ったメディアであり、その表現には全て「意図」が込められている。掲載された写真、図、表、グラフは、本文と関連があり、そのつながりを読み解くことで学習内容の理解が容易になる。リーディングスキルの中の「イメージ同定」「具体例同定」などの基礎読解力を発揮して、子供に教科書を読み取る・読み解く機会を十分に保障している。

特に複線型授業・単元内自由進度学習では、すべての子供が教科書を自分のペースで熟読する光景が定着している。



子供が教科書に行った書き込み（6年社会・一部）

リーディングDXスクール事業【実践事例】

笠岡市立笠岡小学校（岡山県）

【取組内容】教科書から情報を分析的に読み取り、整理・表現する

2 自分のめあてに基づいて情報を整理・表現する

子供は、「教科書の図や写真を比べながら共通点や相違点を見付ける」、「本文の該当箇所と図・グラフ等とを結び付ける」、「キーワード等に線を引いて既習事項や関連した内容を書き込む」等の作業を通して、教科書から情報の収集を行い、社会科の見方・考え方を発揮しながら、内容を整理するスキルを身に付けてきた。その後、自分の学習のめあてに基づいて、Googleドキュメント等のワークシートへ学習内容を表現した。



#今後社会はどのように変わるか(前回の予想)

日米修好通商条約を結んで、日本がかなり不利で不平等な関係でいる＝不満だと思う

○人々の生活

18世紀：不作⇒米の値段が上がる、飢え死にする人が多数出る

19世紀：幕府の役人＝大塩平八郎が苦しむ人を救う

＝大商人のやしきに攻めに行く

幕府をたいへんおどろかせました⇒開国して貿易がはじめる生糸が盛んに輸出～品不足～

値段が上がる⇒また人々が苦しむ……一揆、打ちこわしをするようになる

＝民衆が米屋を始め、質屋、酒屋などの富豪を

襲撃(しゅうげき)、家屋の破壊や家財の略

(りやくだつ)などを行う暴動(ぼうどう)の事

不満が高まる(生活に苦しむ人)

薩摩藩、長州藩の下級武士たちによる、

幕府をたおして天皇中心

西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允

★朝廷とも手を結び、幕府を倒す計画

15代将軍徳川慶喜は、「幕府の政治を続けることはできない!!」と考え

1867年に政権を天皇に返した(大政奉還)

～鎌倉以来700年ほど続いた武士の世の中終了～

#今回の自分のまとめ

西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允は天皇中心の運動をしていた。そして700年の武士の世の中が終了した。

西郷隆盛	大久保利通	木戸孝允
勝海舟とともに江戸城無血開城を実現し、王政復古のクーデターを成功させた。新政府内でも参議として維新の改革を断行。明治6(1873)年征韓論に敗れ下野。10年間の私学校生徒に促されて参兵(西南戦争)するが、政府軍に敗北し、自刃した。	版籍奉還や廃藩置県を推進し、新政府の基礎を固める。参議、大蔵卿を経て明治4(1871)年特命全權副使として岩倉遣外使節団に随行。帰国後、内政整備を主張し、参議兼内務卿となり、政府軍に敗北し、自刃した。	幕末から明治にかけ活躍した政治家。長州藩の実権をにぎり、後、薩摩藩と手を組み、幕府をたおす。明治新政府で、五箇条の御誓文などを作成。新しい時代の基礎をつくる。

○活躍した人物について(誰がどんなことをしたのか)

【勝海舟 1823～1899】

江戸攻撃を中止させる

・1863年、倒幕軍の西郷隆盛を話し合い、江戸攻撃を中止させる

【板垣退助 1837～1919】

自由民権運動を指導する

・1874年、「民権議院設立の建白書」を政府に提出する

1881年、自由党をつくる

関連人物後藤象二郎 江藤新平

【大久保利通 1830～1878】

明治維新を進める

・1868年、薩長同盟を結ぶ

新政府の中心となって版籍奉還、廃藩置県などの改革に努める

関連人物西郷隆盛 木戸孝允

【西郷隆盛 1830～1877】

倒幕運動の中心となる

・1866年、薩長同盟を結ぶ

新政府軍の指揮を取り、江戸城明け渡しに成功

のちに、征韓論を唱えて政府と対立する

・1877年、西南戦争を起こすが敗れ、自害する

関連人物大久保利通 木戸孝允 坂本龍馬

【木戸孝允 1833～1877】

明治維新を進める

・1868年、薩長同盟を結ぶ

西郷隆盛・大久保利通とともに、維新の三傑(3人の優れた人物)と呼ばれる

○民衆について(どんなことを思っていたのか、どんなことをしたのか)

・開国によって人々の暮らしが苦しくなり、幕府に対する不満が高まった

○幕府について(どうだったのか)

・15代将軍徳川慶喜は、幕府の政治を続けることはできないと考えた

1867年に政権を天皇に返した(大政奉還)

「鎌倉幕府以来700年ほど続いた、武士の世の中が終わった」

○めあてに対する自分のまとめ

開国して貿易が始まる

亀津先生の話

廃藩置県

・県に替えて明治天皇が管理します(これで県になった)

・300ぐらいの県を削って47になった

身分制

・明治はまだ武士がいた

・西民平等⇒でもまだ差別はあった

・天皇が平等に暮らせる世の中をつくらうとした

・地租改正と廃藩置県をしたことで天皇中心の政治をするよというのをしらせるため

★予想 方向は生活が不安になっていっているから逆にならなくとも思う

12月4日(水)

◎新しい国づくりは、どのような方針でおこなわれていったのだろう

教科書P.172.173

資料集P.102

「明治天皇の五箇条の御誓文、廃藩置県、明治維新」

・下級武士たちが中心となった

・1868年、新しい政治の方針を明治天皇の五箇条の御誓文として示した

五箇条の御誓文

一 政治は、広く意見を聞き、多くの人が意見を述べあううえで決定しよう

一 国民が心を一つにして、新政策を盛んにおこなおう など

・新政府の中心となった木戸孝允や大久保利通らは、天皇中心の政治を全国に、領地と領民を天皇に返させた(版籍奉還)

木戸孝允

身分の低い武士の家に生まれる。16才のとき、吉田松陰のもとで学ぶ。1866年、薩長同盟を結ぶ。西郷隆盛・大久保利通とともに、維新の三傑(3人のすぐれた人物)と呼ばれる。

大久保利通

身分の低い武士の家に生まれる。1868年、薩長同盟を結ぶ。新政府の中心となって版籍奉還、廃藩置県などの改革に努める。のちに、土族の反感をかい、暗殺される。

・藩を廃して新たに県を置き、政府の役人である知事を派遣した(廃藩置県)

★新しい世の中のできるために進められた政治や社会の改革を、明治維新という

「明治時代の身分制」

・政府は

天皇の一族を皇族

貴族や大名などを華族

武士を士族⇒刀をさすことを禁じられた

⇒豊臣秀吉もしていた

リーディングDXスクール事業【実践事例】

笠岡市立笠岡小学校（岡山県）

【取組内容】Google Workspace等を活用した迅速かつ効果的な情報共有

1 Google Classroomを活用した校務

子供達が学習活動等でフル活用しているGoogle Classroomは、教職員が校務等で使う頻度も著しく高まってきている（①）。笠岡市教育委員会が独自に導入しているグループウェアも活用しやすい機能を備えており、現状で教職員は併用しているが、学校のネットワークを離れても情報共有できるGoogle Classroomの活用がいっそう増えてきた。各教職員がそれぞれの校務分掌に応じて必要な依頼・情報提供を効率的に行うことができ、校務の負担を軽減している（②）。また、子供の指導に関わる事例でもあるが、保健室のClassroomでは、一人一人の子供と養護教諭が1対1でやり取りをするドキュメントの設定がなされていて、ここに悩み等を書き込み相談できるシステムを用意している。実際、いじめ問題等を発見することができ、教職員間で速やかに情報共有をして指導に活かすことができた（③）。

教職員が授業等でGoogle Classroomを積極的に活用しているので、様々なアイデアを活かして校務での活用が進んでいる。今後も迅速かつ効果的な情報共有が広がっていくものと考えます。

2 Google Chatの活用と課題

迅速かつ効果的な情報共有ができる手段として、教職員間で活用できるGoogle Chatを設定している。例えば、不審者情報を子供の下校時までに共有するために、緊急性を要する情報を具体的に・確実に全教職員へ伝える手段として有効である（④）。一方で、本市教育委員会の規定により、教職員が私物のスマートフォンなどを教室へ持ち込むことは「管理職の許可を得て行う」とことと定められており、日常的に活用することはできていない。教室で指導に利用する端末はノート型PCで、手軽に持ち歩くことが難しい。Google Chatのような手段を有効に機能させるための環境整備は、本市学校の課題となっている。

3 Google Workspace以外のツール活用

上記した市教委が導入しているグループウェアも併用してペーパーレス・効率的な校務が進んでいる。また、保護者・学校関係者への配信メールシステム・学校ウェブサイトを活用して、学校からの情報発信のペーパーレス化もいっそう進み、働き方改革への寄与が図られてきた。

先生用 連絡網
笠岡小学校

保健室 (6年生)
笠岡小学校 2024

6年2組
笠岡小学校 2024

2月3日

本年度の個人のまとめ（授業実践報告）についてお願いします。
ドキュメント（元）を「複製」してご使用下さい。

〆切は2月末まで
どうぞよろしくお願い致します。

授業実践報告
Google ドキュメント

保健室へようこそ 2024年度

1 提出済み 35 割り当て済み 5 返却済み

提出を受け付けています ⓘ

返却済み

12月17日、火曜日

12月17日 14:19

至急 🚨
一斉下校、いっしょに歩ける人は、途中までお願いします。速くまで行く必要はありません。

不審者情報。
〆で11時18分ごろ、50代男性、身長170、ニット帽、黒サングラス。
敷地内で写真を撮影していたので、職員が声をかけたら、逃走。
不審者として県から連絡がありました。